

府省名	厚生労働省	部署名	大臣官房会計課経理室
-----	-------	-----	------------

### 取組のポイント

年間12,000件にも及ぶ膨大な調達業務の効率化を目指し、業務の棚卸しや問題点の洗い出しを行った上で、RPA(Robotic Process Automation)の導入を推進。

登録された日時に定められた内容の電子メールを送付するRPAを会計担当と各部局とのやり取りに活用することにより、双方で、書類の削減、確実な進捗管理、業務の効率化などの効果。全ての調達に適用すると約3,000時間/年の削減が見込まれ、また、省内の他の会計機関への展開も視野に入れている。

### 取組概要

#### 【取組の背景】

国の調達事務は厳格性が求められており、履行状況を確認した職員に報告書類を作成させる必要があるなど手順が煩雑かつ膨大である。そこで、年間12,000件の調達業務の効率化と、各部局の業務負担を増やさず適正な会計処理のための検査を行うという矛盾した課題の解決のため、RPAを活用した業務見直しを実施。

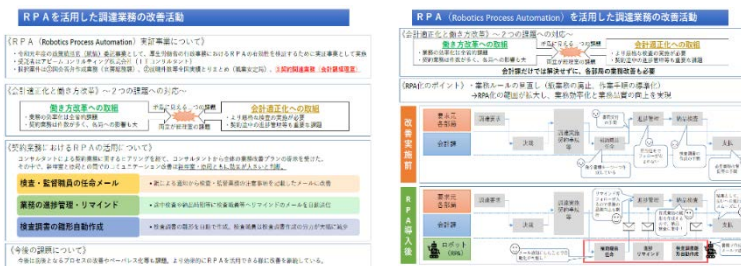
#### 【取組の内容】

RPAの導入に際して、現行業務をそのまま置き換えるのではなく、コンサル会社の協力を得て、現在の業務内容を分析した上でRPAによる改善方法を検討。また、会計課のみならず全省的な業務効率化を図るため、「紙の書類を会計課に提出するのに時間を取られる」という各部局の声を踏まえ、書類の電子化も併せて実施。さらに、各案件の進捗管理が会計課と各部局の双方で労力を要し、ミスが生じやすいと考えられたので、スケジュール管理も同時に出来るツールの作成を目指した。

今回作成したRPAは、指定の日時に決められた編集内容に従い、ファイルを添付してメールを送る機能とした。これにより、①従来、紙で行っていた各部局の職員に納品検査を行わせるために必要な通知を電子的通知に変更(ペーパーレスの実現)、②調達の途中での契約履行状況の確認や納品のタイミングでの納品検査をリマインド、③検査調書の雛形を作成し、検査職員は簡単に書類が作成できるようにし、会計課と各部局との間のスムーズなコミュニケーションを図った。また、RPA登録までの業務プロセスを見直し、調達業務自体の効率化を目指している。

#### 【取組の成果】

現在、検査職員等の任命及び一部の検査に活用しているが、全案件へ適用した場合、約3,000時間/年が削減可能。また、RPAは多数の宛先へ指定のタイミングで書類を自動作成・個別にメール送信できるため、条件に合致した宛先に対する個別の周知・連絡等の調達業務以外への活用や、他の会計機関への展開も期待。



### 【RPAを活用した調達業務の改善活動】

#### 講評

処理件数が多く、手作業で膨大な時間がかかっている調達業務をRPA化することは非常に意義があると考えます。また、RPA化に向けた考え方などの検討過程を明らかにするとともに、今後、削減可能な時間を予測している点も評価できます。